四季報No.62　2006.7

鴨東通信

おうとうつうしん

てぃーたいむ

守ること、伝えること

田中安比呂・大山喬平

■私のノートから■

冬の祇園祭

河内将芳

史料探訪㉕

西南学院校舎から大学博物館へ
……文化遺産としての建築の再生

米倉立子

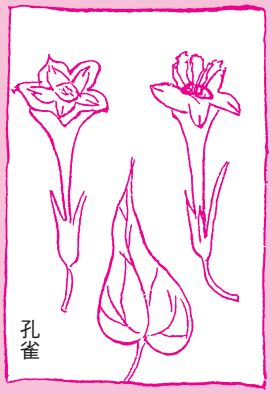
特別寄稿

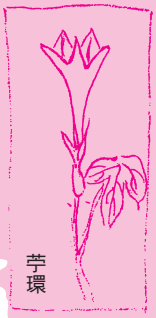
人生を変えた朝顔

小笠原亮

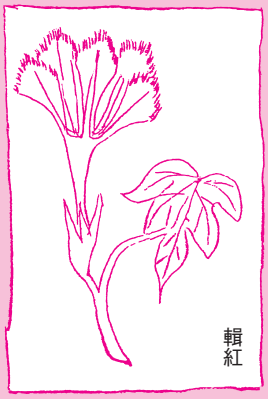
◉新刊紹介◉

上賀茂のもり・やしろ・まつり
中世京都の都市と宗教
本能寺史料　中世篇
想　音
隔蓂記総索引
隔蓂記　全7巻
茶道と恋の関係史
朝顔明鑑鈔
「封建」・「郡県」再考
近世儒者の思想挑戦
東アジアの交流と地域諸相





夏



思文閣出版

守ること、伝えること

田中安比呂（賀茂別雷神社宮司）・大山喬平（京都大学名誉教授）

◆上賀茂神社とは◆

田中：上賀茂神社は京都の街の北にございまして、古代より朝廷を始めあらゆる人々に篤いご崇敬をいただいた神社でございます。ただ、残念ながら観光客の方はやはり交通の便のよい中心街へ行かれる方が多いですね。また、お参りされる方もなかなか由緒まではご存知ないので、昨年より神職がご案内・ご説明をいたします「国宝・本殿特別参拝とご神宝の拝観」を始めました。今回『上賀茂のもり・やしろ・まつり』を刊行することによって、当社は皇室をはじめ京文化・日本人にとって大切な神社であることをより身近にわかっていただける契機となり、当社にとってもたいへん有意義なことだと思うんですね。

大山：上賀茂神社に所蔵される古文書にはたくさんのことが書かれています。たとえば、この本のなかで、橋本政宣さんがお書きになっておられますが、賀茂川の水は上賀茂神社が支配しており、その水は近隣の田の用水として用いられるとともに、京都御所の泉水でもあったのです。宮廷の中枢にいた人たちから農耕に携わる人たちまで、いろいろな人たちの姿がいっぱいでてきますね。こういう文書の残り方というのは本当に珍しいものです。これから研究していくと、日本の歴史のいろんなことがひとつのケースとしてわかってくると思います。

大山氏

さらに、ここは京都の街から離れているということで、神社の行事だけでなくて、村の方々の行事もいろいろ残っていますね。その意味で、昔からの文書と伝統的な行事とがいっぱいあって、日本の文化というものが非常に多様なもの、豊かなものだということがわかるんじゃないでしょうか。

◆今に残る行事・神事◆

田中：当社では、新年を迎えて最初の卯の日に卯杖（うづえ）を奉る神事があります。平安時代に邪気を祓うものとして用いられていたそうですけど、今に至るまで当社に伝わっており、両陛下・両殿下にも初卯神事でご祈願申し上げた卯杖を奉献致しております。

ほかに当社の特殊神事としては2月の第2の子（ね）の日に行う神事で、燃灯祭（ねんとうさい）というものもあります。昔行われた子の日の遊びからきたものですが、2月の新芽が出る時に、神職みなで山に行き小松を取って神様にお供えするんです。いにしえは野原に出て芽をつんで、そこでお酒を飲んだり歌を詠んだり、そういうのが楽しみだったんでしょうね。京都の冬はすごい寒さですし、昔は暖房もございませんしね。春ほど待ち遠しいものはなかったんじゃないでしょうか。きっと日差しもそれまでと違って強く、暖かくなってね。そういう歴史あるお祭りを伝えて、今でも奉仕しております。

大山：神社の直接の行事もそうですし、この村

にあるいろんな行事を是非この地域で次の世代に伝えていただきたいですね。

田中：そうですね。また、15歳の男の子が成人を迎えることを奉告する幸在祭（さんやれさい）という神事もあります。少子化となっておりますが、ぜひ続けていきたいものですね。昔は15歳になった家の両親がこれから15歳になる子どもたちを町会所に集めて、幸在の行事の練習をする。子どもを集めて、しきたりとか歴史とかを話して聞かせたと思うんです。そもそも幸在祭とはどうしてするんだとかね。子どものしつけというか、心構えみたいなものを話した。また、それを聞いた子どもが大きくなったときに、自分の子どもには当然15歳の時にしてあげなきゃいけないというその繰り返しがずっとあったと思うんですね。このような風習がなくなるということは本当にまわりとの付き合いがなくなるということですので、大切な行事だと思いますね。

独特な神事としては御田植祭（おたうえさい）といって、稲種の苗を橋から小川に投じるものもあります。これは川の中に捨ててしまうみたいでおかしいように思えるんですけど、この川が社家町を通ってやがて水田に流れていく。つまり、その水が社家町に住んでいた方々をはじめ、京都に住む人たちの田んぼ、農地に入るんです。神様の心がこもった水が供給されるという思いというのがあって、この神事があるんじゃないかなと思いますね。

大山：そうですね。上賀茂神社の特色というのは、今の賀茂県主（かもあがたぬし）同族会、昔は氏人といった、賀茂の社家の一族の方の組織と密接なかかわりがあり、連綿と続いていることがあげられますね。それが古文書をたくさん残してきたということにもつながりますね。

田中：賀茂の社家の方々が、ほんとうに自分たちのご先祖様の神様を祀っているというお気持ちが強かったからでしょうね。

日本の文化・伝統というのは同じ事をずっと継続して繰り返してきたことの文化だと思うんですね。先ほどの幸在祭ではないですが、自分が親から、祖父母から聞いたことを自分の代で

やめることはできない、伝えて残さなければいけないと、ずっと何代もの方が考えてこられたと思うんですね。今年は金がないとか準備が出来ないとかいってやめてしまうことは簡単ですが、それをどうにかやれる、あるいはできなくてもすぐ翌年、翌々年、いつかは同じように復帰できたというのは、本来のあり方を正しく伝承してきたことや、文書が残っていたことが要因でしょう。それをずっと今日まで継承してきた当社の伝統の重さをひしひしと感じます。

◆古文書を通して◆

大山：本書のもとになったのは、京都府教育庁文化財保護課が平成9年より行った文書調査です。その成果は、平成15年に『賀茂別雷神社文書目録』として結実し、本年の賀茂別雷神社文書の重要文化財指定につながったわけです。その古文書の調査のときのことですけど、とにかく14,000点という膨大な量ですので、あなたはどの部分の文書を見るという担当を決めました。各自がうけもったところの文書は、縦横の長さを測り、枚数を数えて、ざっと中身を見て文書の題名をつけるという作業をしました。その後、調査したことをわかりやすくみなさんにお知らせしようということで、歴史文化講座を計画していただいて、調査に携わった先生にお話しをしていただき、それがもとになってこの本ができました。たぶんこれで神社の文書が、どこにどんなものがありそうだということが調べやすくなって、これから研究がすすんでいくと思います。私はこの本は今後の研究の本当の入口になると思います。これがきっかけで将来もっとみなさんに研究していただければいいで

すね。

田中：おっしゃるとおりです。神事と同じように古文書も後世に伝えていくためのものですし、今後しっかりと考えて保存に力をいれていかなければならないと思います。

平成27年には当社の42回目の遷宮があります。その遷宮の事業のひとつとして、古文書の管理も考えております。当社には信長や秀吉など歴代の天下取りの人たちの文書が数多く残っており、より多くの方に古文書に馴染みをもっていただけたらいいですね。

大山：そうですね。ここに残っている古文書のとりわけ数が多いと思いますのは戦国時代から江戸時代のはじめにかけてのものですね。おっしゃるとおり信長や秀吉など当時の有名な人の書状や、あるいは文化人のものなど、本当にたくさんそろっております。その意味でもみなさんが興味をひかれるものも多いと思います。

田中：当社で開催しております「上賀茂神社の古文書を読む会」（年6回）も6月から始まりますが、古文書に興味を持つ方が多くいらっしゃいます。古文書を読みながら先生方に解説をしていただいて、おもしろい話がその中ででてくることもあるでしょうし、私たちにとってもたいへん勉強になります。

上賀茂神社の歴史や古文書をより多くの方に知っていただくことで、伝承・保存ということを今一度考えていただく機会となれば幸いです。

（2006.6.17 賀茂別雷神社にて）

上賀茂のもり・やしろ・まつり

大山喬平監修／石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編　【最新刊】

内容目次

第1章　もりのいとなみ（歴史編）

平安時代の賀茂社（上島享）
源平争乱期の上賀茂社（元木泰雄）
承久の兵乱と上賀茂社（杉橋隆夫）
南北朝の内乱に生きた神主と氏人たち（石川登志雄）
戦国争乱と上賀茂社（野田泰三）
算用状と覚書を読む（下坂守）
聚楽第をめぐる豊臣秀次と賀茂の氏人（藤田恒春）
賀茂別雷神社と賀茂川（橋本政宣）
社家町に住む人々（五島邦治）
上賀茂社と貴布祢社（田中淳一郎）
明治維新と賀茂祭（高木博志）
明治維新期の神社と社家（落合弘樹）

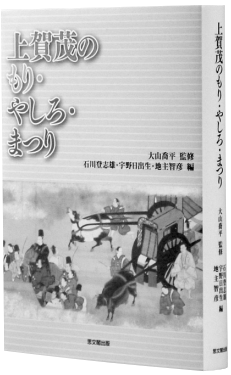
第2章　まつりといのり（文化編）

御戸代神事と猿楽能（五島邦治）
祭祀と神饌（宇野日出生）
遷宮と造替（谷直樹）
一紙にても取隠し、あるいは加筆いたし、または少しも写取まじく候（地主智彦）

第3章　やしろのまかない（諸国荘園編）

安曇川御厨と供祭人（宇野日出生）
若狭国の賀茂祭と宮河荘（外岡慎一郎）
あそびたわぶれの縁（大山喬平）
播磨国の上賀茂社領荘園（馬田綾子）
加賀国金津荘と能登国土田荘（東四柳史明）
コラム（清浄なる装束／神聖なる葵／勇壮なる競馬）
付録（諸国荘園分布図／賀茂別雷神社職制・職名／賀茂別雷神社摂末社一覧／賀茂別雷神社年表）

カラー口絵4頁
挿入図版60点余



▶A5判・416頁／定価2,940円　ISBN4-7842-1300-7

中世京都の都市と宗教

河内将芳著　【最新刊】

これまで「町衆」の祭礼としてイメージされてきた中世の祇園会（祇園祭）や、「町衆」の信仰とされてきた法華信仰・法華宗など、都市社会と宗教・信仰との関係について、山門延暦寺に関する研究成果や中近世移行期統一権力の宗教政策論に即してとらえ直すことにより、その実態をあらためて問い直す。

◎内容目次◎

第一部　室町・戦国期

第1章　室町期祇園会に関する一考察
第2章　戦国期祇園会に関する基礎的考察
第3章　戦国期祇園会の神輿渡御について
第4章　戦国期祇園会と室町幕府
第5章　戦国期祇園会の再興と『祇園会山鉾事』
第6章　山門延暦寺からみた天文法華の乱
第7章　都市共同体と人的結合

第二部　織　豊　期

第1章　山門延暦寺焼討再考序説
第2章　安土宗論再見
第3章　中世末期堺における法華宗寺院
第4章　東山大仏千僧会と京都法華宗
第5章　近世移行期の権力と教団・寺院
第6章　豊国社の成立過程について
第7章　天下人の「死」とその儀礼
終　宗教勢力の運動方向

（5頁に著者エッセイ掲載）

▶A5判・416頁／定価7,140円　ISBN4-7842-1303-1

中世京都の民衆と社会

河内将芳著　思文閣史学叢書

本書では、従来の共同体論・社会集団論の視角を受けつつも、各社会集団の人的結合の側面を重視し、それらが実際にいかに都市民衆の上に表出し交差したのか、その歴史的展開を具体的に検討していく。

▶A5判・410頁／定価9,240円　ISBN4-7842-1057-1

中世寺院社会の研究

下坂 守 著　思文閣史学叢書

中世社会で大きな影響力をもっていた比叡山延暦寺を主たる対象とし、惣寺（僧侶たちによる合議）を基礎単位とした中世寺院の広がりを寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。

▶A5判・598頁／定価10,290円　ISBN4-7842-1091-1

本能寺史

藤井學・上田純一

中世から寛永期まで
『本能寺史料』に漏
宗祖日蓮上人・開山
に関する史料、京都
室町時代から豊臣秀
などを収録。

▶A5判・446頁／定価

既刊〔全５巻〕▶A5

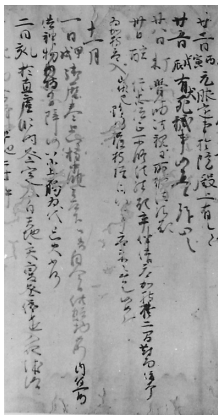
畿内・東国末寺篇	定
西国末寺篇	定
本山篇上	定
本山篇下	定
古記録篇	定

【既刊23巻】

第1回配本（全3巻）	定価3,356円
第2回配本（全2巻）	定価3,305円
第3回配本（全1巻）	定価3,356円
第4回配本（全1巻）	定価3,356円
第5回配本（全1巻）	定価3,356円
第6回配本（全2巻）	定価3,315円
第7回配本（全1巻）	定価3,315円
第8回配本（全2巻）	定価3,388円
第9回配本（全3巻）	定価2,835円
第10回配本（全2巻）	定価3,399円
第11回配本（全1巻）	定価3,378円
第12回配本（全1巻）	定価3,993円
第13回配本（全1巻）	定価3,367円
第14回配本（全1巻）	定価3,399円
第15回配本（全1巻）	定価3,999円

合計定価5、371、260円

以後平成26年まで毎年1回配本、全23回配本、平均予価350、000円



上杉本洛中洛外図屏風（米沢市上杉博物館所蔵）

御堂関白記全註釈

山中 裕 編　〔第2期全8冊〕

藤原道長の「御堂関白記」は、一級の日記史料で平安朝研究には不可欠のものである。本註釈は、永年にわたる講読会（京都・東京）と夏期の集中講座による研究の成果を集成。原文・読み下しと詳細な註により構成。

第1回（長和4年）　290頁／定価6,300円（-1158-6）
第2回（寛弘3年）　222頁／定価5,775円（-1214-0）
第3回（寛弘7年）　220頁／定価5,775円（-1260-4）
第4回（寛弘4年）　220頁／定価5,775円（-1302-3）
〈以後年1回刊行予定〉
第5回（寛弘8年）／第6回（寛弘5年）
第7回（長和5年）／第8回（長徳4年～長保2年）

東寺百合文書

［第1期全10巻］

京都府立総合資料館編

東寺に襲蔵されてきた、奈良時代から江戸時代初期まで約900年にわたる、総数18,000点・27,000通におよぶ国宝「東寺百合文書」から『大日本古文書』（東京大学史料編纂所）未収録の「カタカナ之部」を翻刻（年1回発行）。

第1巻（イ・ロ函一）490頁／定価9,975円
ISBN4-7842-1182-9
第2巻（ロ函二）　446頁／定価9,975円
ISBN4-7842-1224-8
第3巻（ロ函三）　450頁／定価9,975円
ISBN4-7842-1266-3

※継続注文（刊行の都度お届け）承ります

料 中世篇　【最新刊】

ー・波多野郁夫・安国良一編

での文書266点および附録、既刊れた近世文書を補遺として収録。山日隆聖人の書状類や寺地の変遷部の法華宗の動向を伝える文書、秀吉にいたる禁制類、本能寺法度

15,750円　ISBN4-7842-1305-8

判・平均550頁／揃定価99,750円
価17,850円　ISBN4-7842-0723-6
価18,900円　ISBN4-7842-0808-9
価18,900円　ISBN4-7842-0911-5
価21,000円　ISBN4-7842-1012-1
価23,100円　ISBN4-7842-1112-8

禁裏・公家文庫研究 第一輯・第二輯

田島 公 編

勅封のため全容が不明であった東山御文庫本を中心に、近世の禁裏文庫所蔵の写本や、公家の諸文庫収蔵本に関する論考・史料紹介・データベースを収載。

◎第二輯目次（抄）◎

東山御文庫架蔵「地下文書」の性格　（飯倉晴武）
中世天皇家の文庫・宝蔵の変遷　（田島　公）
高松宮家旧蔵『伏見殿文庫記録目録』について　（詫間直樹）
九条本『官奏抄』の基礎的考察　（石田実洋）
宮内庁書陵部蔵『叙位儀次第』（管見記第五軸）紙背文書について　（小川剛生）
東山御文庫マイクロフィルム内容目録（稿）（2）　（小倉慈司）

▶B5判・平均400頁／定価（各）10,290円
ISBN4-7842-1143-8・-1293-0

想　音

白井嵯千著　【最新刊】

平安時代の歴史と文学、紫式部の身辺を丁寧に調べ上げてまとめた力作。巻末付録として藤原氏と紫式部・高階家・藤原宗子の各系図・平安時代の歴代の天皇・動乱・勅撰集の一覧を収める。

◎内容目次◎

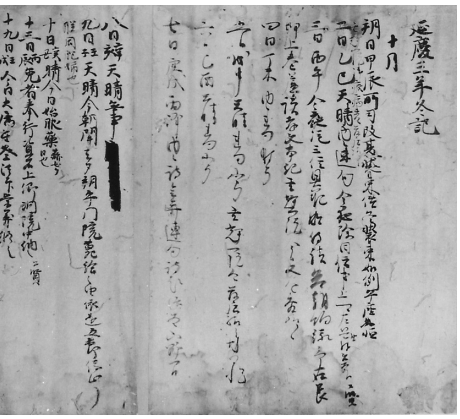
睡り／時の流／母の面影／歌の響／巻末付録（藤原氏と紫式部の略系図・高階家系図・藤原宗子の系図・桓武帝から後鳥羽帝まで歴代の天皇など）

▶46判・192頁／定価2,100円
ISBN4-7842-1309-0

花園院宸記

宮内庁書陵部編　［全三十五巻］

＊歴史的古文書を原本そのままの姿で学界などに提供することにより、学問の進歩、並びに原本の保存に寄与する
＊本宸記は伏見宮に伝来し、延慶三年花園天皇十四歳の時より、元弘二年三十六歳の時に至る二十三年間の天皇自筆日記の原本である
＊鎌倉時代の代表的歴史資料であり、貴重な文化財でもある
＊傑出した能筆家であり、その巧まざる達筆をもって、自在に書記された宸記は他に類をみない書道史上の優品である
＊宮内庁書陵部の研究者による釈文及び書誌的事項を中心とした解説を別冊として各巻に付した
＊全三十五巻を原寸でダイレクトに撮影し、原本に忠実な完全複製に努めた
＊三色ないし四色のコロタイプ印刷で、原本に近い色調を再現、裏書についても裏打ちを考慮して再現に努めた
＊巻子仕立・桐箱及び艶箱入、表紙＝重目古代絁（古代紫）、用紙＝越前特漉鳥の子三号紙



近世文化のルネサンス・寛永文化を縦横に検索するための必須文献

隔蓂記（かくめいき） 総索引（全1巻）

『隔蓂記』研究会 編

7月下旬刊

日記『隔蓂記』（全6巻）の膨大な情報をコンピューターで整理し、人名・事項・社寺名・地名の四種類の索引にまとめる。

▶A5判・760頁／定価14,700円

ISBN4-7842-1312-0

同時復刊！

赤松俊秀校訂 隔蓂記（かくめいき） 全7巻（本篇6巻 総索引1巻）

近世文化の最重要史料、金閣鹿苑寺住持鳳林承章自筆の日記。総索引完成を機に、総索引を含めた全7巻セットとして復刊。

――記述内容――

後水尾院の宮廷文化／千宗旦・小堀遠州・片桐石州・桑山一玄・金森宗和などの茶人／野々村仁清・粟田宮作兵衛ら初期京焼の陶工／二代池坊専好のいけばな／狩野守信・山本友我などの絵師の活動／林羅山らの儒者／本阿弥光甫・曽谷宗喝ら市民との親交の様子／俳諧等の文芸／修学院・桂離宮／茶師・画商・古書画・古陶など

▶A5判・総5,130頁／定価73,500円

ISBN4-7842-1311-2

岩井茂樹著

茶道と恋の関係史

【7月下旬刊】

「恋は茶道の精神に反する」とされた――谷崎潤一郎の随筆にあった興味深い一節をきっかけに、恋歌と茶道の関係を茶書や茶会記に探る。
茶会の掛物のほか、茶道具の銘に隠された「恋」を紹介し、なぜ恋歌が問題となり、また使われることもあったのかを明らかにする。

まえがき―茶と恋の出会い

第1章　茶書中に見られる恋への言説
はじめに／恋歌の忌避(1) 江戸時代の茶書／恋歌の忌避(2) 明治以後の茶書／おわりに―恋の掛物は用いてもよいか？

第2章　恋の茶会―恋の掛物をなぜ使うのか？
はじめに／掛物に関する若干の考察―季節感の誕生と染筆者尊重意識について／恋歌茶会の意味／おわりに―亭主が恋歌を掛ける時

第3章　銘の世界―隠された恋の役割
はじめに／銘研究の現状と成果／歌銘についての分析／小堀遠州のたくらみ／おわりに―銘における恋とは何か？

第4章　恋とは何か？
―恋歌の本意と、千家流茶道にとっての恋歌
はじめに／恋の語源について／恋の本意とは？／千家が恋歌を掛ける訳／なぜ千家流茶道は恋歌を禁じたのかおわりに―今後の課題と展望

いわい・しげき…1969年奈良県生．総合研究大学院大学博士号取得退学．国際日本文化研究センター研究部技術補佐員．

▶A5判・230頁／定価3,990円

ISBN4-7842-1313-9

前田多美子著

三藐院（さんみゃくいん） 近衛信尹（このえのぶただ） 残された手紙から

第1部　近衛三藐院の生涯
生い立ち／元服―信長の庇護のもとに―／関白相論／薩摩配流／帰洛／改名、還任、関白となる／信尹の素顔／信尹、死す

第2部　近衛三藐院の書
能書の評判、注文の数々―御哥にても何にても詩にても―／書風の変遷、近衛流確立に至るまで／近衛流はどこからきたか／遺墨／近衛流の人々、手本の刊行

挿入図版40点

▶A5判・272頁／定価2,415円

ISBN4-7842-1299-X

本阿弥光悦、松花堂昭乗と並ぶ寛永の三筆。三藐院流の祖というより、激動期の摂関家ゆえの波乱の生涯だった。著者は手紙など千点を超す遺墨に接し、生身の人間像に迫る。何と食通で大食漢で「沈酔」する酒豪。信長の一字を受けた信尹だが、「嫉妬深き悪女」のような公家社会に生きるのが定め。そこに秀吉が割り込んできて、あげくに薩摩配流。紀行には南蛮船や三味線を弾く琉球人などの世相も映す。下克上の世に、上流は上流で沈まずにどう泳ぐかの暗闘が興味深い。

『朝日新聞』読書面　二〇〇六・六・一一

公家茶道の研究

谷端昭夫著　第16回茶道文化学術賞（財団法人 三徳庵）

近世における「公家茶道」を取り上げ、その独自の形態、実態と特徴、茶道史における位置づけを考察し、茶が持つ文化の内実を深める。

［内容］公家の茶の研究／公家茶道への序章／公家茶道への道／公家茶道の形成／流儀化と伝授／まとめにかえて／史料「後西院御茶之湯記」

▶A5判・394頁／定価6,825円

ISBN4-7842-1265-5

百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

和歌・文芸の領域はもちろん、日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。それぞれのテーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵（16頁）収録。

▶B5判・196頁／定価2,520円

ISBN4-7842-1223-X

顔会初代会長となられた加藤角太郎氏であり、趣味の朝顔作りとはいえ、私にとって最初のお師匠さんであった。

高校卒業と同時に、迷わず愛知県立清州園芸試験場へ研究生として入場し、本格的に園芸の勉強をさせてもらうようになった。その間、当時発行されていた『農業日本』なる月刊誌に「名古屋朝顔の作り方」と題して発表する機会を得ることができ、これが最初の原稿書きとなった。

昭和二九年、京都大学農学部の研究生として熱帯植物を中心に学び、昭和三二年春、園芸を楽しんで下さる方々へ向け、鉢植えや苗資材等をあつかう「名古屋園芸」を創業、今日に及んでいる。

変り咲朝顔との出会い

昭和四九年の夏、三重大学の教授のご紹介で、伊賀上野市にお住まいの小川信太郎氏を長男とともにお訪ねした。小川氏は、趣味の園芸をするのに困難な戦中戦後の時代にも「変り咲朝顔」を作り続けた方。文献上は承知していたものの実物を拝見するのは初めてのことであり、感動を通り越してカルチャーショックを受けた。筆舌には尽くしがたい葉や花形を目の当たりにしながら、そうした個体の出現について遺伝の法則から説明していただき、更にそうした変り咲朝顔の栽培は江戸時代からあったと、何冊かの古書を示しながら教えていただいた。

この見学が発端となって、長男は小川氏に変り咲朝顔作りの教えを乞うため伊賀上野へ通い、私は古典籍といわれる江戸期に著された園芸文化に関わる書物や種々の資料集めに、いっそう力を注ぐようになった。

『朝顔明鑑鈔』

集書歴数年の頃、親しくなった東京本郷の古書店のご主人が、「あなたが来られるのを待っていた、この本は珍しい本である、是非持っていてほしい」との説明付きで出してくれたのが、『朝顔明鑑鈔』（尾張藩士三村森軒著・享保八年序・上中下三冊・写本）であった。

この書物を読み進めるうち、時代の古さと内容の面白さ、他に伝本がなく、研究者もあまり目にしておられないことを知り、この度の「名古屋園芸」創業五〇周年記念事業の一つとして、この『朝顔明鑑鈔』の影印と翻刻を思い立った（下段参照）。

更に第二弾として、平野恵氏が『十九世紀日本の園芸文化』（思文閣出版）でも多く引用されている、江戸時代中～後期に植物・園芸愛好連中が刊行した「植物番附」や「引札様の刷りもの」などをまとめ『江戸時代植物すりもの集』（仮）と題して、これまた影印・翻刻すべく目下準備中である。

いずれにしても、私の園芸人生の最初に朝顔があり、節目節目に朝顔が現れ、教えてくれたり、励ましてくれたこと。そして常に私には良師、良友、良書、良家族のあったことを改めて感謝したい。

（名古屋園芸代表取締役社長／園芸研究家）

十九世紀日本の園芸文化

江戸と東京、植木屋の周辺

平野 恵 著

近世後期から明治前期にかけての園芸文化史を江戸・東京を中心に叙述。本草学・見世物研究分野を視野に入れ、大田南畝らが主導した化政期以降の狂歌界との関連など文芸分野との統合をはかり、植木屋のさまざまな活動状況をふまえた「園芸文化」という新しい領域を開拓。図版70余点

第1部　連と園芸品評会の流行　下町地域における園芸植物の流行／「連」から植木屋へ／近世後期における変化朝顔流行の形態

第2部　園芸と本草学　本草学者・岩崎灌園の園芸における業績／植木屋柏木吉三郎の本草学における業績

第3部　植木屋の隆盛　花暦出板と園芸文化／梅屋敷から花屋敷へ　補論2篇

付録　19世紀園芸文化関係地図／年表　図表一覧／索引

▶A5判・550頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1292-2

あさがお 朝顔明鑑鈔 めいかんしょう

〈影印と翻刻〉

三村森軒著／小笠原 亮編

園芸・園芸史研究・園芸書収集家としてつとに有名な小笠原亮氏が、所蔵する尾張藩士・三村森軒著『朝顔明鑑鈔』（享保8年＝1723）を影印・翻刻。

本書は文化・文政期におこった第一次朝顔栽培ブームにさきがける朝顔史料として、本草学や園芸文化史などを研究する上で貴重な史料である。影印と翻刻を見開きで紹介する。

序（米田芳秋）
翻刻にあたって（小笠原亮）
朝顔明鑑鈔　上・中・下　影印・翻刻
著者　三村森軒について（種田祐司）
収録品種一覧

7月刊

▶A5判・320頁／定価4,200円　ISBN4-7842-1315-5

人生を変えた朝顔

小笠原　亮

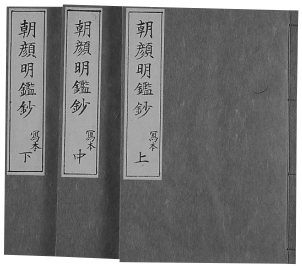
名古屋の中心部は、第二次大戦の空襲によりすっかり灰燼に帰し、私の家族も被災者であった。戦後は食糧不足を少しでも補うようにと、家族で焼け跡を耕し、甘藷や野菜、麦などを作った。その片隅で、これまた焼け残りの欠けた植木鉢で、ご近所からいただいた朝顔を数鉢育てていた。

名古屋朝顔との出会い

昭和二二年夏のある日。朝顔に水やりをしていると、パナマ帽に麻の和服姿の老人が近寄って来られ、「これはあなたが育てておられるのか」とお尋ねあって、「実は私も朝顔が好きで作っています。近い所だからよろしかったら見に来られませんか」とご親切なお誘い。その夜父親に話すと、子ども一人で行かせるのはよくないと思ったのか、翌朝父に伴われて出向いた。そのお宅は幸いにも戦災を免れ、玄関には打水がなされ、私たち父子を迎えて下さった。

通されたのが小さな中庭に面した座敷。床の間とその前に一〇鉢ほど並べられた色鮮やかに咲き揃った大輪の朝顔の美しさ。初めて見ることのできた「名古屋朝顔・盆養切込作」であった。この時、子ども心に受けた感動は、今もって忘れることができない。お抹茶をご馳走になり、作り方などをうかがい、「種子が採れたら差し上げる」とまで約束して下さった。このお方こそ、昭和二四年、再興名古屋朝

名古屋朝顔・盆養切込作（品種：千羽鶴）
黒釉の香炉型の鉢に植え、ツルを切込んで花咲かせるのが特徴



『朝顔明鑑鈔』（上中下三冊）

『朝顔明鑑鈔』の記載品種に近い変り咲朝顔
（品種：青常葉紫覆輪石畳咲）

牧野標本館所蔵のシーボルトコレクション

加藤僖重著

ソビエトのコマロフ植物研究所から牧野標本館に渡ったシーボルトの植物標本を精査した成果。標本に付されたメモや添付図からビュルガー、伊藤圭介、水谷助六、小野蘭山などの採集者、採集地を特定。江戸時代の博物学の実態を探る。

▶A5判・300頁／定価5,670円　SBN4-7842-1165-9

花道古書集成　全5巻

華道沿革研究会編

初期東山時代の代表的秘伝書をはじめ、江戸初期・中期の諸流祖の花道書から幕末に至る主な花道書を収録し、昭和5年に刊行されたものの復刻。貴重な文献と作例図により生花の歴史・理論・技法の真髄に触れることができる。

▶A5判・3400頁／定価33,600円　ISBN4-7842-0087-8

人参史　全7巻

今村鞆著

古代から現代にわたって中国・朝鮮・日本の政治・経済をも動かしてきた人蔘に関する古今の史料を悉く集積。編年紀・思想篇、政治篇、経済篇、栽培篇、医薬篇、雑記篇、蔘名・彙攷篇の全6篇別篇1にまとめた。昭和9年版の復刻。

▶菊判・総3,930頁／定価57,750円（分売不可）

ISBN4-7842-0030-4

続花道古書集成　全5巻

続花道古書集成刊行会編

正篇が古刊本中心であるのに対し、続篇は未刊の古写本に重点をおく。華道草創の室町初期から各流各派成立、爛熟した江戸時代末に至る秘伝、稀覯本を網羅し、中でも「華厳秘伝之大事」「極儀秘本大巻」「藤掛似水華伝書」「諸花抛入百瓶図」「雲の上」などは重要。

▶A5判・2710頁／定価36,750円　ISBN4-7842-0088-6

「封建」・「郡県」再考　東アジア社会体制論の深層

張翔・園田英弘共編　**最新刊**

東アジアの社会体制（あるいは統治機構）を表す「封建」と「郡県」という伝統的大概念を多角的に検討し、その論理的枠組や時代的要請による理論的発展の構造を解明しようとする試み。国際日本文化研究センターで行われた共同研究の成果13篇。

総　論―封建郡県論の背景と展望―（張翔・園田英弘）

Ⅰ　封建・郡県概念の普遍化の試み

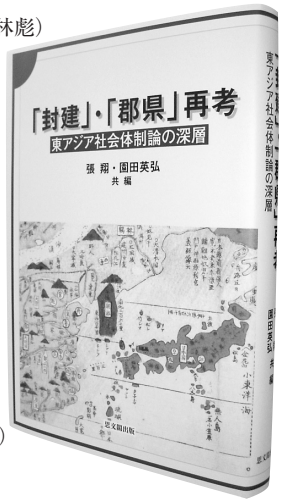
歴史学的概念としての〈封建制〉と〈郡県制〉―「封建」「郡県」概念の普遍化の試み―（水林彪）
政治学からみた「封建」と「郡県」―概念の限定のために―（中田喜万）
「天下公共」と封建郡県論―東アジア思想の連鎖における伝統中国と近世日本―（張翔）

Ⅱ　中国における封建・郡県論

顧炎武「郡県論」の位置（林文孝）
中国における「封建・郡県論」と公共性―政治システムと法・道徳―（本郷隆盛）
清末中国社会と封建郡県論（杉山文彦）
封建制は復活すべきか―封建制の評価をめぐる清末知識人の議論―（佐藤慎一）

Ⅲ　日本における封建・郡県論

近世日本の封建・郡県論のふたつの論点―日本歴史と世界地理の認識―（前田勉）
「民の父母」小考―仁斎・徂徠論のために―（田尻祐一郎）
近世日本の公儀領主制と封建・郡県制論（中山富広）
森有礼の「封建」・「郡県」論―制度論的思考の展開―（園田英弘）
近代日本における「封建」・「自治」・「公共心」のイデオロギー的結合―覚書（松田宏一郎）
清末の立憲改革と大隈重信の「封建」論―他国の政治改革をめぐる自国史認識―（曽田三郎）
ちょう・しょう…中国復旦大学教授／そのだ・ひでひろ…国際日本文化研究センター教授



▶A5判・412頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1310-4

近世儒者の思想挑戦　**最新刊**

本山幸彦著

林羅山・熊沢蕃山・貝原益軒・荻生徂徠・松平定信・佐久間象山・横井小楠……彼らが解決の道を目指して取り組んだ時代の課題は、いかなる歴史状況のもとで発生し、いかなる問題を抱くものであったのかを提示。日本思想史の基本図書。

▶A5判・314頁／定価7,875円　ISBN4-7842-1304-X

絶対透明の探求　**7月刊**

遠藤高璟著『写法新術』の研究

尾鍋智子著

江戸後期の視覚変革の結晶・加賀藩士遠藤高璟（1784-1864）が著した『写法新術』。18世紀後半～幕末の視覚論、遠藤の加賀藩における知的交流と思想を論じ、『写法新術』の内容を分析。遠藤の視覚論を明らかにする。

▶A5判・310頁／定価6,090円　ISBN4-7842-1294-9

日中親族構造の比較研究

官文娜著　思文閣史学叢書

近代以降、日本が果たした西洋異文化との融合が、なぜ中国では不可能だったのか。異文化の特質解明という視点から古代日本と中国の血縁親族構造の比較を検証しつつ、近代文化との衝突の原因と融合の条件を探る。

▶A5判・400頁／定価7,560円　ISBN4-7842-1241-8

中国近世における国家と禅宗

西尾賢隆著

中国における仏教の姿を正しく把握すべく、4回の廃仏のなかでも最大の「会昌の廃仏」を円仁の『入唐求法巡礼行記』にみるほか、「偽経・語録」「僧制・清規」へと発展する戒律の受容の姿を検証した著者永年の研究成果。

▶A5判・370頁／定価7,875円　ISBN4-7842-1289-2

東アジアの交流と地域諸相　**最新刊**

金沢星稜大学ORC代表　藤井一二編

「アジア地域交流学」の構築を目指す金沢星稜大学ＯＲＣプロジェクトの一環として2005年に敦煌研究院の2氏を迎えて開かれた「アジア文化交流と世界遺産を語る」フォーラムの成果である。

▶B5判・170頁／定価3,360円　ISBN4-7842-1306-6

中国における妊娠・胎発生論の歴史

中村禎里著

生命倫理の問題を解決すべく、日本人の生命理解の前提となる中国文化・インド仏教における妊娠・胎発生論の歴史を通史的に叙述。生から死に移る過程や死観に集中している日本の生命観の研究に一石を投じる。

▶46判・260頁／定価2,940円　ISBN4-7842-1295-7

思文閣史学叢書［既刊42冊（品切除）］

	書　　名	著者名	定価	ISBN4-7842-
古代	日本古代即位儀礼史の研究	加茂正典	9,030	0995-6
	日本古代商業史の研究	中村修也	7,560	1268-X
	日中親族構造の比較研究	官　文娜	7,560	1241-8
	日本古代宮廷社会の研究	瀧浪貞子	12,390	0677-9
	律令国家の展開と地域支配	西別府元日	8,610	1111-X
	平安時代の古記録と貴族文化	山中　裕	9,240	0857-7
	源氏物語の史的研究	山中　裕	9,660	0941-7
中世	院政期政治史研究	元木泰雄	8,190	0901-8
	荘園制成立史の研究	川端　新	9,240	1054-7
	荘園公領制の成立と内乱	工藤敬一	9,240	0750-3
	中世東寺と弘法大師信仰	橋本初子	10,290	0621-3
	対外関係と文化交流	田中健夫	10,500	0694-9
	京都中世都市史研究	高橋康夫	9,240	0318-4
	中世考古美術と社会	難波田徹	10,290	0649-3
	中世京都文化の周縁	川嶋將生	8,190	0717-1
	中世京都の民衆と社会	河内将芳	9,240	1057-1
	法然伝と浄土宗史の研究	中井真孝	9,240	0861-5
	日本中世の政治権力と仏教	湯之上隆	9,240	1071-7
	中世公家領の研究	金井静香	6,300	0996-4
	中世寺社信仰の場	黒田龍二	8,190	1011-3
	中世寺院社会の研究	下坂　守	10,290	1091-1
	中世後期の寺社と経済	鍛代敏雄	8,400	1020-2
	中世都市共同体の研究	小西瑞恵	6,720	1026-1
	中世都市「府中」の展開	小川　信	11,550	1058-X
	中世村落の景観と生活	原田信男	11,340	1022-9
	中世東国の支配構造	佐藤博信	8,190	0554-3
	続中世東国の支配構造	佐藤博信	8,190	0916-6
	中世寺領荘園と動乱期の社会	熱田　公	9,450	1203-5
	戦国期東国の都市と権力	市村高男	11,340	0855-0
	戦国大名武田氏の研究	笹本正治	8,190	0780-5
	戦国大名の外交と都市・流通	鹿毛敏夫	5,775	1286-8
	戦国期関東公方の研究	阿部能久	5,985	1285-X
近世	幕藩制国家の成立と対外関係	加藤榮一	9,240	0954-9
	日蘭交渉史の研究	金井　圓	8,925	0446-6
	鎖国時代長崎貿易史の研究	太田勝也	14,490	0706-6
	近世日蘭貿易史の研究	鈴木康子	10,080	1178-0
	旗本知行所の研究	川村　優	10,290	0532-2
	幕藩権力と寺院・門跡	柚田善雄	7,560	1166-7
	近世京都の都市と民衆	鎌田道隆	8,190	1034-2
	日本近世地誌編纂史研究	白井哲哉	9,660	1180-2
	転換期長州藩の研究	小川國治	9,240	0908-5
	洋学史論考	佐藤昌介	8,190	0782-1

※本叢書は年数冊を刊行。継続注文（刊行の都度お届け）承ります。

書評・紹介一覧　3～5月掲載分

※（評）…書評（紹）…紹介（記）…記事〔敬称略〕

十九世紀日本の園芸文化
（紹）環境緑化新聞第557号
（評）読売新聞5／28朝刊読書面（白幡洋三郎）

中国における妊娠・胎発生論の歴史
（評）中外日報第26883号（三友健容）

日本近世地誌編纂史研究
（評）日本史研究525号（岸本覚）

散所・声聞師・舞々の研究
（評）日本史研究525号（西田かほる）

関山慧玄と初期妙心寺
（紹）寺門興隆2006年4月号
（評）中外日報4／20（原田正俊）
（記）京都新聞5／11朝刊（著者インタビュー）

数奇の革命
（評）京都新聞3／12朝刊読書面
他地方新聞（共同通信配信）（陶智子）
（評）読売新聞3／12朝刊読書面（白幡洋三郎）
（評）公明新聞5／1（火坂雅志）
（紹）河北新報5／8朝刊河北春秋欄

近世後期瀬戸内塩業史の研究
（紹）中国新聞5／7朝刊読書面

茶の湯　連翹抄
（評）茶道文化687号（田中仙翁）

民芸運動と地域文化
（評）カーサブルータスvol.74（5月号）
（中原慎一郎）

京・近江・丹後大工の仕事
（紹）朝日新聞3／30朝刊京都面

ひとりは大切
（紹）京都新聞3／4朝刊読書面
（紹）同志社タイムス609号

根付　高円宮コレクションⅡ
（紹）目の眼4月号No.355
（紹）京都新聞3／5朝刊読書面
（紹）季刊 銀花145号
（紹）Bien（美庵）38号

続日本仏教美術史研究
（紹）中外日報第26857号

皇室の饗宴とボンボニエール
（紹）小さな蕾3月号

国際シンポジウム 公家と武家の比較文明史
（記）読売新聞3／28夕刊（編者インタビュー）

日本建築の構造と技法
（評）建築史学第46号（後藤治）

棟札の研究
（評）建築史学第46号（佐藤正彦）

中世村落の景観と環境
（評）日本歴史第696号（原田信男）

視覚芸術の比較文化
（評）比較文学第48号（斎藤恵子）

鮫島尚信在欧外交書簡録
（評）古文書研究第61号（真辺美佐）

思文閣出版古書部

善本特集第18輯注文受付中

（豊臣秀吉朱印状）

＊通常目録『思文閣古書資料目録』の第198号は7月下旬刊行の予定です。

思文閣出版古書部では、年に一度、厳選した古典籍・古文書等に解説を付した豪華目録を刊行しています。日本の文化財といえるこれらの資料をご購入いただき、研究・教育活動にご利用いただければ幸いです。

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入元町357
TEL: 075-752-0005　FAX: 075-525-7155
http://www.shibunkaku.co.jp

思文閣美術館ご案内

夏休み特別企画展

「赤毛のアン」の世界

アンの家・グリン・ゲイブルス
（撮影：吉村和敏）

2006
7／1 sat ～ 8/10 thu
10：00～17：00（最終日は16：00閉館）
月曜休館（祝日の場合開館、翌火曜休館）

モンゴメリと訳者、村岡花子の人生を初版本、自筆訳稿、書簡等でたどる他、アンの物語を再現した写真や銅版画を展示、多方面からのアプローチでアンの魅力に迫ります。

＜記念講演会＞※各先着100名
7月15日（土）14:00～
「『日記』が語る『赤毛のアン』の真実」
講師：桂宥子氏（岡山県立大学教授）
7月22日（土）14:00～
「村岡花子譯に込められているもの」
講師：村岡恵理氏
（赤毛のアン記念館・村岡花子文庫主宰）

□入館料：一般800円（600円）　高大生500円（400円）　小中生300円（200円）
※（　）内は団体10名以上・前売料金

お問合せ
〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7
TEL075-751-1777　FAX075-762-6262
http://www.shibunkaku.co.jp/artm/

3月から5月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本回数	巻数	巻タイトル	ISBN4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
佛教大学鷹陵文化叢書	14	14	未知への模索	1291-4 C0322	06014679	0668104	06553473	2,415	3
禁裏・公家文庫研究	2	2		1293-0 C3324	06023758	0751107	06708457	10,290	4
大手前大学比較文化研究叢書	3	3	ヴィクトリア朝英国と東アジア	1297-3 C3322	06023752	0751508	06705644	3,360	4
花園院宸記	15	23		1307-4 C3321				399,000	5

3月から5月にかけて刊行した図書

図書名	著者名	ISBN4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
戦国大名の外交と都市・流通	鹿毛敏夫	1286-8 C3021	06014744	0750586	06564462	5,775	3
東大医学部初代綜理池田謙斎池田文書の研究（上）	池田文書研究会編	1284-1 C3027	06014745	0669311	06553531	7,140	3
佐々木六角氏の系譜	佐々木哲	1290-6 C3004	06014656	0669293	06564454	2,310	3
近世後期瀬戸内塩業史の研究	山下恭	1287-6 C3021	06014689	0668090	06553630	6,300	3
中国近世における国家と禅宗	西尾賢隆	1289-2 C3022	06017000	0668609	06571921	7,875	3
俊頼髄脳の研究	鈴木徳男	1296-5 C3092	06017448	0669748	0661537	8,400	3
中国における妊娠・胎発生論の歴史	中村禎里	1295-7 C3027	06017470	0750739	06611479	2,940	3
十九世紀日本の園芸文化	平野恵	1292-2 C3024	06019221	0751397	06629596	6,825	4
戦国期関東公方の研究	阿部能久	1285-X C3021	06022402	0751094	06692131	5,985	4
東海地域文化研究	名古屋学芸大学短期大学部東海地域文化研究所編	1298-1 C3024	06023765	0751045	06692149	3,675	4
昭和初期　一移民の手紙による生活史	中野卓・中野進編	1301-5 C1036	06024743	0751795	06716633	2,940	4
三藐院近衛信尹（さんみゃくいんこのえのぶただ）	前田多美子	1299-X C1021	06026717	0752371	06777874	2,415	5
近世儒者の思想挑戦	本山幸彦	1304-X C3021	06029190	0752634	06796698	7,875	5
中世京都の都市と宗教	河内将芳	1303-1 C3021	06030672	0752965	06800296	7,140	5
東アジアの交流と地域諸相	金沢星稜大学ORC代表藤井一二編	1306-6 C3022	06030513		06817696	3,360	5

（表示価格は税5％込）

▶てぃーたいむ余録◀　お話しをうかがう前に賀茂の神様に本の刊行のご報告にあがりました。ぴんと張りつめた空気。一気に緊張感が高まりました。梅雨にもかかわらず空は晴れわたり、神様が温かく見守って下さっているようでした。（も）
▶表紙図版◀『朝顔明鑑鈔』より

本誌は年４回刊行しております。定期購読は無料です。下記までお申し込み下さい。
刊行図書目録の最新号（2006年版）をご希望の方はお申しつけ下さい。

株式会社思文閣出版
〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7　☎075-751-1781㈹　FAX.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/　e-mail: pub@shibunkaku.co.jp